

少人数学級で豊かな学校生活を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な暮らしへの影響が現れている。特に学校へ通う児童・生徒、教職員、保護者もこれまで経験したことのない突然の休校や分散登校など様々な苦難を経験した。

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の「新しい生活様式の実践例」では、一人一人の基本的感染症対策として、1、身体的距離の確保、2、マスクの着用、3、手洗いの3つが挙げられているが現在の40人学級では国の定める子どもの感染を防ぐための身体的距離が取れない。劇場や公共施設でも定員の半分での使用となっており、日常の暮らしでも人との距離を取ることが当たり前になっているのに、学校の教室は身体的距離が取れていないことは問題であると考えます。

また、分散登校で少人数授業を行った経験からは、一人一人の生徒の顔がよく見えること、授業がよく分かること、20人以下だと一人一人に光を当て、全員を主役にする授業ができたという教職員の声が寄せられている。8月に行われた教育新聞のアンケートでも公立学校の教員の96.6%が少人数学級に賛成している。全国知事会、全国市長会、全国町村会も少人数学級の実施を求めている。

よって、本市議会は、国会、政府及び東京都に対し、少人数学級で豊かな学校生活を求め、下記の事項を強く要望する。

記

- 1 3密を避け、一人一人の子どもの安全と学ぶ権利を保障するためにも少人数学級を実施すること。
- 2 必要な教職員の加配と財政支援を行うこと。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和2年9月30日

三鷹市議会議長 石井良司